



地域を見つめる経済情報誌

長野しんきん 北信地区経済動向



「すかい」(sky: 空)は、北信地区経済の空模様を展望しながら、経済面からとらえた身近な情報をおとどけます。

月例調査レポート



長野市 初冬の花火大会

「それがしも 千両花火の 人数かな」(一茶 文政句帳)
初冬の澄んだ夜空を彩る花火が人気の長野えびす講の煙火大会。
商売繁盛・五穀豊穡を願う長野のえびす講は、西宮神社の御祭礼です。
以前は祭礼の11月20日に打ち上げられていた花火ですが、1995年からは勤労感謝の祝日に実施されています。日本でそして世界で様々な事があった2023年も残りわずか。来年は良い年になることを願い、最後の花火が消えていきます。

- 長野しんきん 月例調査レポート 2
- 企業アンケート「ポストコロナの企業経営」③ 6
- インタビュー 変革期の経営ビジョン 8
- 北信濃 明治時代の風景 (21) 旧長野県庁周辺 10

「すかい」は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫 すかい](#)



これからも、ずっといっしょに、このまちで



概況 全産業

生産は2カ月ぶりの低下 前年同月比は4カ月連続の低下

◇2023年9月の長野県鉱工業指数

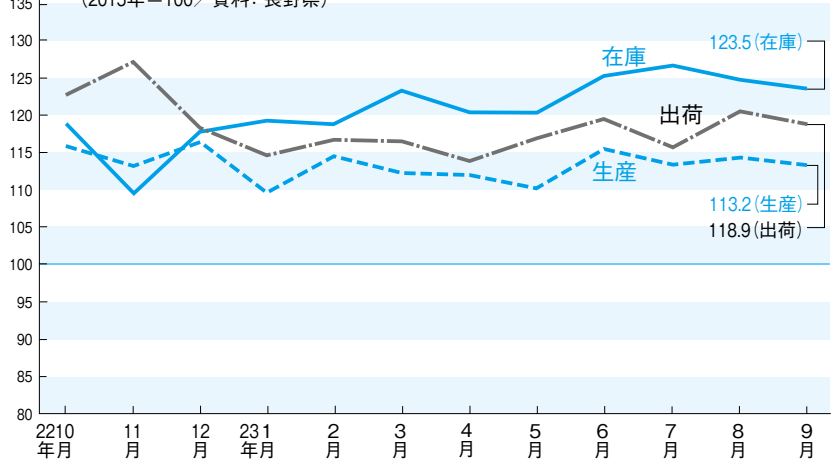
(速報：季節調整済指数)

生産は113.2(前月比▲0.9%)で2カ月ぶりの低下、出荷は118.9(同▲1.3%)で2カ月ぶりの低下、在庫は123.5(同▲1.0%)で2カ月連続の低下となりました。

◇前年同月比(原指数)

生産は114.2(前年同月比▲3.7%)で4カ月連続の低下、出荷は119.6(同▲3.4%)で9カ月連続の低下、在庫は118.1(同+6.9%)で7カ月連続の上昇となりました。

●長野県鉱工業の生産・出荷・在庫指数(季節調整済)の推移
(2015年=100/資料：長野県)



- [生産] 上昇…食料品、電気機械、輸送機械など9業種
低下…電子部品・デバイス、はん用・生産用・業務用機械、情報通信機械など8業種
- [出荷] 上昇…輸送機械、プラスチック製品、情報通信機械など11業種
低下…はん用・生産用・業務用機械、電子部品・デバイス、非鉄金属など6業種
- [在庫] 上昇…はん用・生産用・業務用機械、情報通信機械、電子部品・デバイスなど10業種
低下…その他、紙・紙加工品、金属製品など6業種

月例調査

全産業の「売上高」は増加

前回調査 2023年9月

◇11月調査による[北信地区の経済状況]

全産業(不動産業・旅館業除く)の売上高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(31

%)が横ばい、「減少」割合(32%)が4割減少、「不変」割合(37%)は4割増加、全体としては増加の状況です。

●売上高(生産高・施工高)前年比「増加・不変・減少」割合

矢印は前回調査比 (3ポイント以上の動き) ↑ 増加 → 不変 ↓ 減少
改善 不変 悪化

業種	前回	今回	改善	悪化
全産業	31.1 ↓	31.1 ↑	33.7 ↓	35.2 ↑
製造業	24.6 ↑	24.6 ↑	38.5 ↑	36.9 ↓
建設業	29.5 →	29.5 →	36.1 →	34.4 ↑
卸小売業	28.6 →	28.6 →	45.2 ↑	26.2 ↓
サービス業	50.0 ↑	50.0 ↑	33.3 ↓	16.7 →
輸送業	37.5 ↓	37.5 ↓	25.0 ↑	37.5 ↑
外食業	87.5 →	87.5 →	12.5 →	0.0 →

業種	回収率	30人未満	30人以上
全産業	193社(86.9%)	71.5%	28.5%
製造業	191社(86.4%)	73.8%	26.2%
建設業	65社(82.3%)	64.6%	35.4%
卸小売業	61社(88.4%)	85.2%	14.8%
サービス業	42社(89.4%)	83.3%	16.7%
輸送業	6社(85.7%)	83.3%	16.7%
外食業	9社(100.0%)	22.2%	77.8%
その他	8社(80.0%)	62.5%	37.5%

製造業

食料品、金属加工品、一般機械、電気機械、自動車部品、精密機械

「生産高」金属加工・一般機械・精密機械が機械増加し、全体も増加

製造業の生産高前年比「増加・減少」割合は、前月に比べ「増加」割合(25%)が3割増加、「減少」割合(37%)が9割減少、「不変」割合(39%)が5割増加、全体として増加の状況です。

●生産高前年比「増加・減少」割合(%)

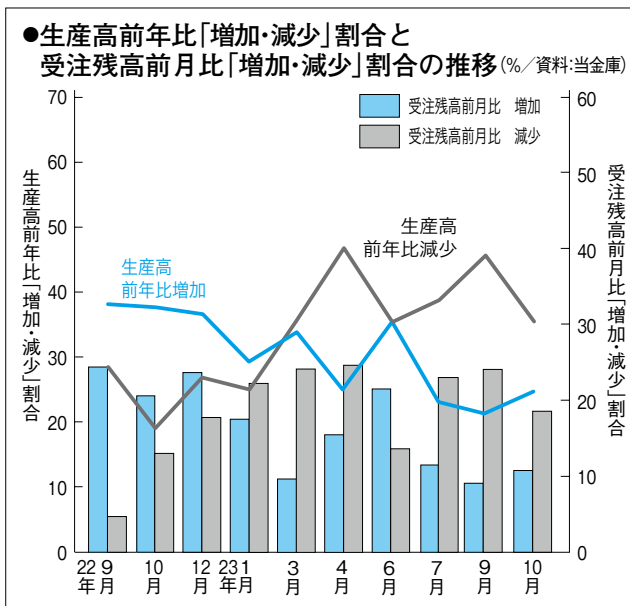
製造業	前回	21.2	33.3	45.5
	今回	増加 24.6	不変 38.5	減少 36.9
食料品		35.7	28.6	35.7
金属加工		14.3	42.8	42.9
一般機械		16.7	50.0	33.3
電気機械		16.7	66.6	16.7
自動車部品		20.0	20.0	60.0
精密機械		20.0	40.0	40.0

【業種別】 増加…金属加工・一般機械・精密機械
横ばい…電気機械
減少…食料品・自動車部品

【機械稼働】 (前回比)稼働率 **上昇**
上昇割合 (12%) → **19%**
下降割合 (17%) → **12%**

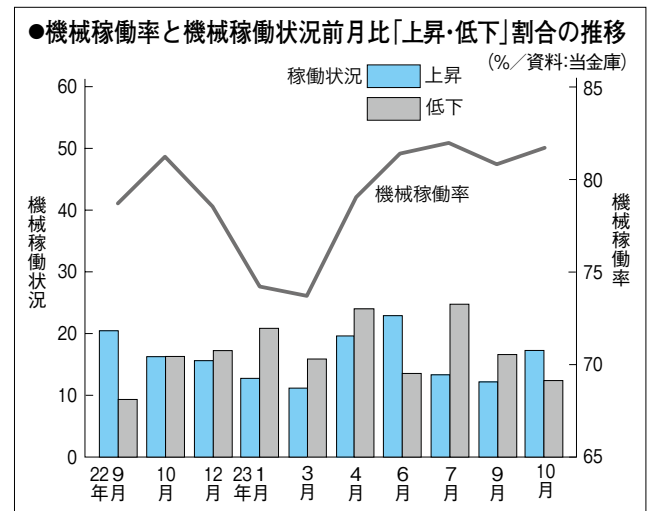
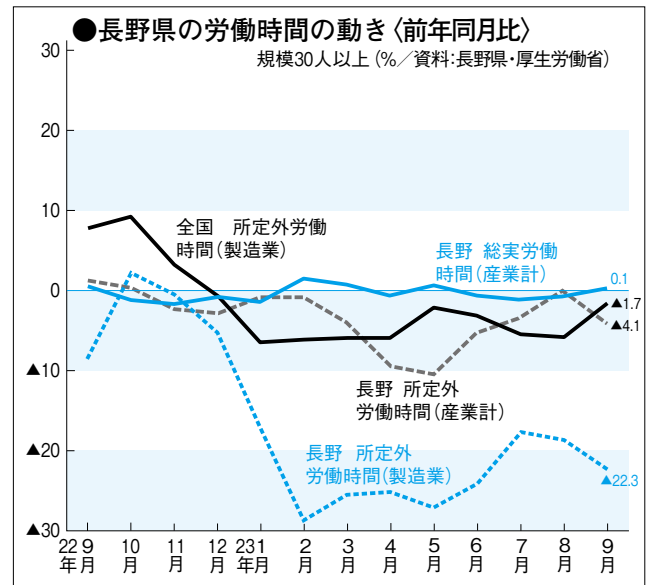
【受注状況】 受注量(前回比) **上昇**
増加割合 (9%) → **11%**
減少割合 (24%) → **19%**
受注残高(1.7ヵ月) → **1.6ヵ月**

【受注基調】 (前回比) **上昇**
上昇割合 (15%) → **20%**
下降割合 (29%) → **19%**



企業からのコメント

- ☆★コロナの分類が5類に変更後、部材の入手も安定して海外市場(主に北米)は順調に回復している。受注は堅調であるが、今後は円安の動きが懸念事項である。(プロジェクター)
- ☆★自動車部品の受注は安定しているが、自動車専用輸出船舶の不足が輸出にも影響し、生産台数は減少する見通しである。(自動車部品)
- ☆★PC関係は閉散期のため低調のほか、半導体関連や基板も低調。しかし、制御盤・釣り銭機器の組立ては繁忙状態である。(制御盤)
- ☆★漬物は12月の需要期に向けて生産量は増加している。しかし、観光客は増えたが土産品の販売増にはつながっていない。(味噌・漬物)
- ☆★お歳暮や年越しそばのシーズンに突入したが、例年とさほど変わらない受注量だと思われるが、本番はこれから。さらなる伸びに期待している。(乾ソバ)



建設業

総合建設、土木工事、建築、各種設備

「施工高」総合建設・土木工事が工事減少し、全体も減少

概況

建設業の施工高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(30%)が3割減少、「減少」割合(34%)が4割増加、「不変」割合(36%)が1割減少し、全体としては減少の状況です。

●施工高前年比「増加・減少」割合(%)

建設業	前回	32.3	37.1	30.6
	今回	増加 29.5	不変 36.1	減少 34.4
総合建設業		30.0	40.0	30.0
土木工事業		25.0	33.3	41.7
建築業		14.3	47.6	38.1
各種設備業		50.0	20.0	30.0

〔業種別〕 増加…各種設備

横ばい…建築

減少…総合建設・土木工事

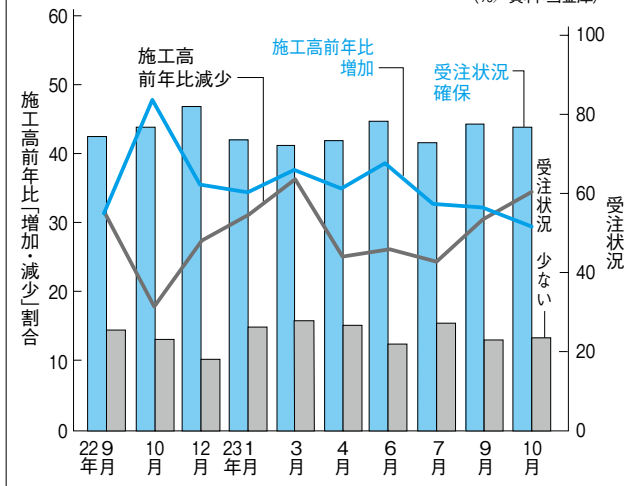
〔受注状況〕 受注残高(前回比) 横ばい

「多い・適正」割合 (77%) → 77%

「少ない」割合 (23%) → 23%

●施工高前年比「増加・減少」割合と受注状況の推移

(%/資料:当金庫)



企業からのコメント

☆★北陸や首都圏の引き合いは多いが、長野県内の引き合いは大型物件以外は低調である。人手不足による製造業の設備投資意欲の鈍化が影響しているのではないかと考える。(内装仕上工事業)

☆★11月初旬に県内の住宅着工数が減っているとの発表があり。消費者がローコスト住宅や建売業者の土地購入を控えていると思われる。(総合建設業)

4～10月の公共工事 (東日本建設業保証取扱分)

長野県の4～10月の発注合計は、1,539.5億円(前年同期比+6.3%)となりました。前年比プラスは「市町村」の469.0億円(同+3.5%)、「その他」の369.9億円(同+53.9%)、マイナスは「国」の239.1億円(▲14.7%)、「県」の456.9億円(同▲2.2%)でした。

北信地区市町村の発注合計は173.2億円(同+41.9%)で、うち長野市は79.6億円(同+37.2%)でした。

●建設業保証取扱分から見た長野県と北信地区市町村の公共工事の状況(2023年10月/2023年4月～10月累計)

(単位=百万円/資料:東日本建設業保証株)

		2023年10月	前年同月比	2023年4月～10月	前年同月比
長野県	国	1,728	▲63.6%	23,911	▲14.7%
	県	2,062	▲54.6%	45,691	▲2.2%
	市町村	6,290	+40.9%	46,904	+3.5%
	その他	357	▲16.9%	36,985	+53.9%
	合計	10,622	▲25.2%	153,952	+6.3%
北信地区	市町村	1,217	+2.5%	17,320	+41.9%
	(内長野市)	438	▲29.9%	7,961	+37.2%

4～10月の新設住宅着工戸数

長野県の4～10月の新設住宅着工戸数は6,763戸(前年同期比▲9.9%)でした。持家が3,818戸(同▲4.7%)、貸家が1,881戸(同▲10.0%)、分譲が1,002戸(同▲28.4%)、給与が62戸(同+416.7%)です。

北信地区の4～10月の新設住宅着工戸数は1,906戸(同▲1.1%)でした。持家が1,039戸(同±0.0%)、貸家が579戸(同+31.3%)、分譲が284戸(同▲36.3%)、給与が4戸(同+100.0%)です。

●北信地区と長野県の新設住宅着工戸数

(2023年10月/2023年4月～10月累計)

(資料:長野県)

		持家	貸家	分譲	給与	合計
北信地区	10月	127戸	67戸	37戸	1戸	232戸
	(内長野市)	73戸	49戸	29戸	1戸	152戸
	前年同月比	+2.4%	+48.9%	▲76.1%	——	▲28.4%
	(内長野市)	+12.3%	+880.0%	▲79.4%	——	▲28.0%
	4～10月	1,039戸	579戸	284戸	4戸	1,906戸
前年同期比	±0.0%	+31.3%	▲36.3%	+100.0%	▲1.1%	
長野県	10月	462戸	177戸	102戸	2戸	743戸
	前年同月比	▲7.6%	▲48.5%	▲57.1%	▲33.3%	▲31.5%
	4～10月	3,818戸	1,881戸	1,002戸	62戸	6,763戸
前年同期比	▲4.7%	▲10.0%	▲28.4%	+416.7%	▲9.9%	

卸小売業

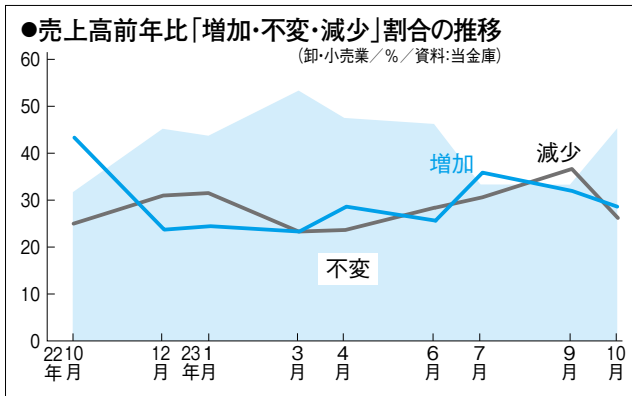
卸売業、小売業

「売上高」卸売が増加、小売は減少

卸小売業の売上高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(29%)が2ポイント減少、「減少」割合(26%)が10ポイント減少、「不変」割合(45%)が12ポイント増加で、全体として売上は増加の状況です。

●売上高前年比「増加・減少」割合(%)

卸小売業	前回	31.0	33.3	35.7
	今回	増加 28.6	不変 45.2	減少 26.2
卸売業		27.8	44.4	27.8
小売業		29.2	45.8	25.0



【業種別】 増加…卸売業 減少…小売業

10月の消費者物価指数(長野市) 2020年基準=100

◇総合指数(確報値)……108.5 (26カ月連続プラス)

(前月比+1.0%、前年同月比+3.5%)

上昇…「光熱・水道」「家具・家事用品」「被服及び履物」
「教養娯楽」「食料」「保健医療」「住居」「諸雑費」
下落…「交通・通信」

◇生鮮食品を除く総合指数…107.9 (27カ月連続プラス)

(前月比+0.8%、前年同月比+2.9%)

企業からのコメント

☆お年寄り向けの衣料品のネット販売が好調。高齢者本人がネットショッピングを抵抗なく利用している。

(婦人衣料品)

☆目立った特徴はないが、新車の納入スパンも少しずつ短期化しており、コロナ以前の販売水準に戻りつつあると感じる。

(自動車販売・整備)

☆★権堂町は、年配の方がとても多くなって来ている。しかし、なかなか購入までいかない。

(衣服)

★今年になって、物価上昇が顕著になってきた影響を花鉢がモロに受けている。先行きが不安。

(生花卸)

サービス業

サービス、輸送、外食、観光、不動産

「売上高」サービスは増加、輸送は減少、外食は横ばい

サービス業 売上高前年比「増加」割合は17ポイント増加の50%、「減少」割合は横ばいの17%、「不変」割合は17ポイント減少の33%と、売上は増加の状況です。

輸送業 売上高前年比「増加」割合は7ポイント減少の38%、「減少」割合は4ポイント増加の38%、「不変」割合は3ポイント増加の25%と、売上は減少の状況。タクシーは横ばい、運輸は減少です。

外食業 売上高前年比「増加」割合は横ばいの88%、「減少」割合も横ばいの0%、「不変」割合も横ばいの13%と、売上は横ばいの状況です。

観光(旅館)業 入込数は平均で前月比33ポイントの増加、前年同月比も13ポイントの増加で、宿泊利用は伸びています。

不動産業 需給状況は前回に比べ、「双方手控え・どちらも低調」は7ポイント増加の57%、「引合いやや増加」は13ポイント減少の0%でした。

企業からのコメント

☆★インバウンドが急増している。台湾や香港の旅行者が多い。また、平日の団体客もコロナ前の状況に戻りつつある。しかし、人手不足が課題。

(観光ホテル)

☆★長野駅前の再開発がプレス発表され、注目はされているが、問い合わせは減った。

(不動産)

★公共工事や民間設備投資が低調のため、建設系貨物の荷動きが鈍い。

(トラック輸送)

●売上高前年比「増加・減少」割合(%)

サービス業	前回	33.3	50.0	16.7
	今回	増加 50.0	不変 33.3	減少 16.7
輸送業	前回	44.4	22.3	33.3
	今回	37.5	25.0	37.5
うちタクシー業		100.0		0.0
うち運輸業		16.7	33.3	50.0
外食業	前回	87.5		125.0
	今回	87.5		125.0

コスト上昇分を「製品・サービスの価格の転嫁」

「転嫁は可能」60% 「転嫁は難しい」32%
「転嫁は不可能」1%

直近の「最重要リスク」

「原材料や資源価格の高騰」59% 「人手不足」29%
「サプライチェーンを巡る課題」3%

企業アンケート
「ポストコロナの
企業経営」③
2023年9月調査

コスト上昇分を「製品・サービスの価格の転嫁」

「全ての転嫁が容易」1%と「ある程度の転嫁は可能」59%を合算した「転嫁は可能」が60%、「同業者との競合上、転嫁は難しい」23%と「下請けであり立場的に難しい」9%を合算した「転嫁は難しい」は32%、「諸事情で転嫁不可能」は1%でした。

直近の「最重要リスク」 「原材料や資源価格の高騰」59%、「人手不足」29%の2項目のみが2ケタ、あとは3%未満でした。

可能(59%)を合算した「転嫁は可能」が60%、「同業者との競合上、転嫁は難しい」(23%)と「下請けであり立場的に難しい」(9%)を合算した「転嫁は難しい」は32%、「諸事情で転嫁不可能」は1%、「その他」は1%、「分からない」6%でした。

従業員規模で見ると、30人未満の「分からない」(8%)が8割、「転嫁は難しい」(33%)が4割、30人以上より高く、30人以上は「転嫁は可能」(71%)が14割、30人未満より高くなっています。

◇4業種の状況

製造業 「転嫁は難しい」(41%)は他業種に比べ最も高くなっています。他方「転嫁は可能」(55%)、「諸事情で転嫁は不可能」(卸小売業、サービス業とともに0%)、「その他」(建設業、卸・小売業とともに0%)が他業種に比べ最も低くなっています。

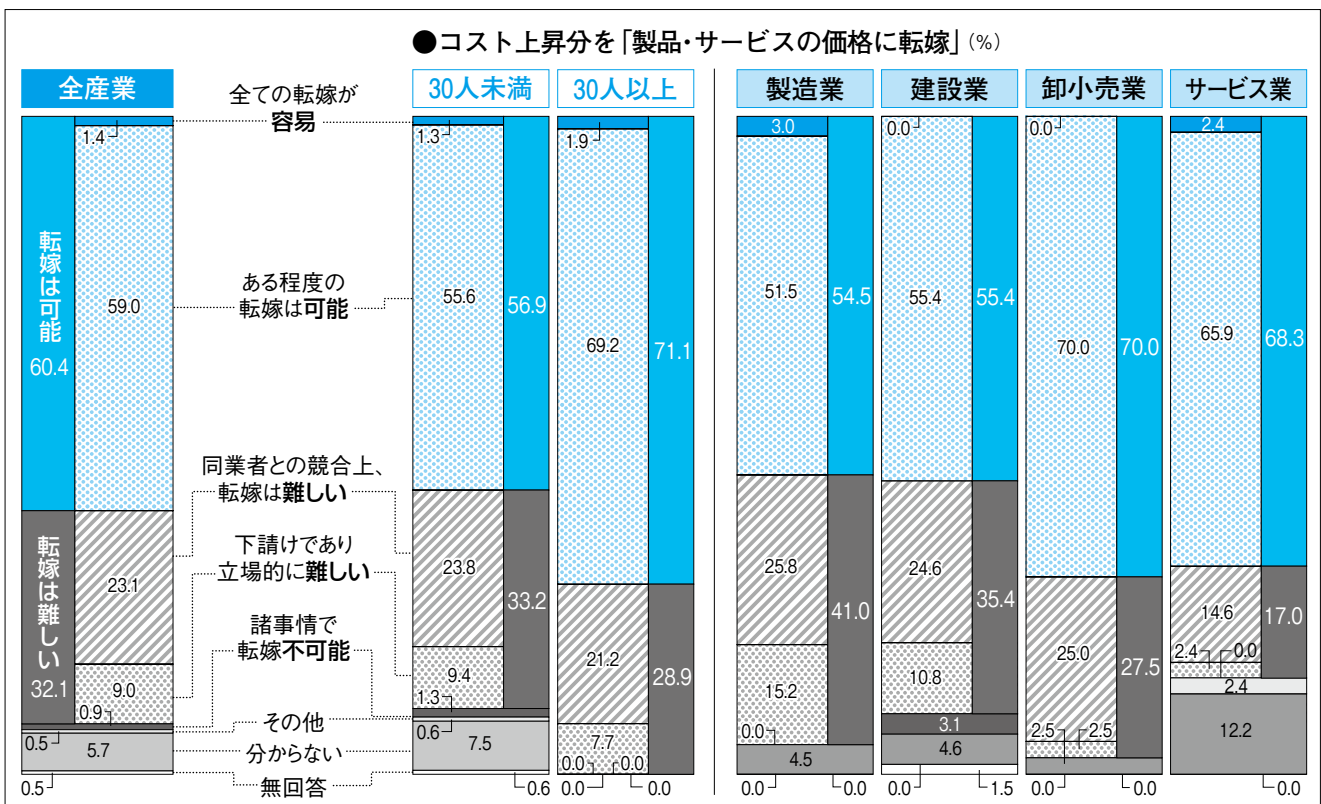
建設業 「諸事情で転嫁不可能」(3%)は他業種に比べ最も高くなっています。

コスト上昇分を「製品・サービスの価格に転嫁」

「転嫁が可能」60% 「転嫁は難しい」32%
「転嫁は不可能」1%

「企業活動における諸々のコスト上昇分を製品・サービスの価格に転嫁すること」を聞きました。

「全ての転嫁が容易」(1%)と「ある程度の転嫁は



卸小売業 「転嫁は可能」(70%)が他業種に比べ最も高く、他方「分からない」(3%)は他業種に比べ最も低くなっています。

サービス業 「分からない」(12%)、「その他」(2%)は他業種に比べ最も高くなっています。他方「転嫁は難しい」(17%)は他業種に比べ最も低くなっています。

直近の「最重要リスク」

「原材料や資源価格の高騰」59%

「人手不足」29%

「直近の最重要リスク」を聞きました。

「原材料や資源価格の高騰」(59%)、「人手不足」(29%)までが2ケタとなり、以下「サプライチェーンを巡る課題」(3%)、「国際情勢の変化」と「自然災害」(ともに2%)、「コロナ感染症等のパンデミック」と「為替変動や株価等の金融資本市場の混乱」と「その他」(ともに1%)、「特になし」(3%)という結果になりました。

従業員規模で見ると、30人未満は「原材料や資源価格の高騰」(61%)が9割、「特になし」(4%)が4割、30人以上より高く、30人以上は「人手不足」(37%)が10割、30人未満より高くなっています。

◇ 4業種の状況

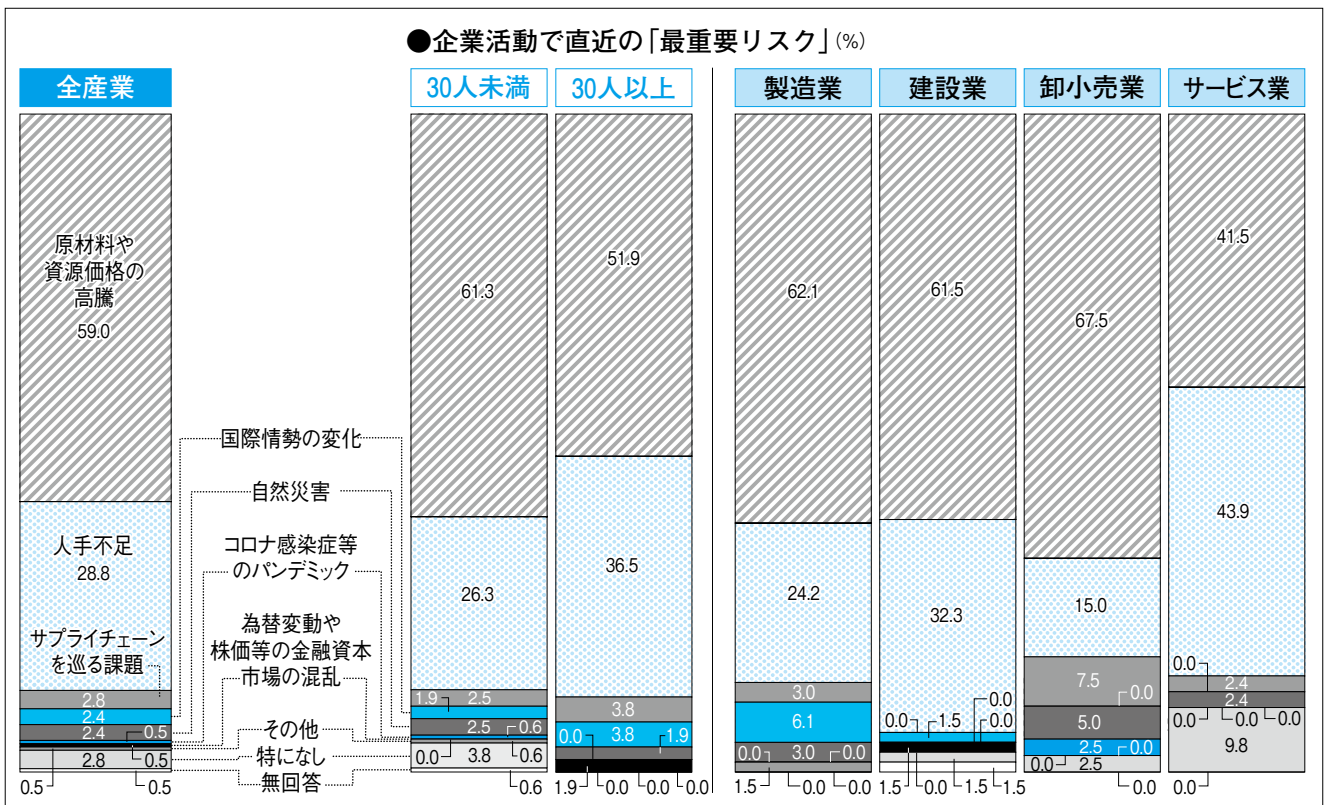
製造業 「国際情勢の変化」(6%)、「その他」(2%)は他業種に比べ最も高くなっています。他方「コロナ感染症等のパンデミック」(建設業・サービス業ともに0%)、「為替変動や株価等の金融資本市場の混乱」(卸小売業、サービス業ともに0%)、「特になし」(0%)は他業種に比べ最も低くなっています。

建設業 「為替変動や株価等の金融資本市場の混乱」(2%)は他業種に比べ最も高く、他方「サプライチェーンを巡る課題」、「自然災害」(ともに0%)、「その他」(卸小売業、サービス業ともに0%)は他業種に比べ最も低くなっています。

卸小売業 「原材料や資源価格の高騰」(68%)、「サプライチェーンを巡る課題」(8%)、「自然災害」(5%)、「コロナ感染症等のパンデミック」(3%)は他業種に比べ最も高く、他方「人手不足」(15%)、「国際情勢の変化」(サービス業ともに0%)、「その他」(サービス業ともに0%)は他業種に比べ最も低くなっています。

サービス業 「人手不足」(44%)、「特になし」(10%)は他業種に比べ最も高く、他方「原材料や資源価格の高騰」(42%)は他業種に比べ最も低くなっています。

◇ 次号は「2024年の経営見通し」を予定



インタビュー 変革期の経営ビジョン



最新のクラウドサービスを NAGANOから世界へ

使えるねっと株式会社
代表取締役社長
ジェイソン フリッシュさま

●創業の経緯をお伺いします…

私は、オーストラリアの人口4千人ほどの小さな町で生まれて育ちました。日本に興味を持ち日本語を勉強していたとき、私の通っている高校に日本の高校生10名が3週間の短期留学で来て、そのうちのひとりが我が家にホームステイをすることになったのです。日本人と初めて日本語で会話をしたのですが、自分が学んできた日本語をうまく使えたことが自信になり、日本に行く決心をして、埼玉県の高校に1年間の交換留学生として来日しました。

自国の大学を卒業し、夢であった日本の企業に勤めたいと心に決め、1999年(平成11)に東京の金融系ソフトウェア企業に入社しました。入社する4年前にWindows95が発表になり1999年には「ADSL」の提供が始まり、日本でも急速にインターネットが普及し始めた頃です。

ところが、多くの人がホームページをどうやって作ったらいのか解らず、また作ってもどこに掲載したらよいか理解していない人が大多数でした。さらに動かせるサーバーが当時の日本には、それほどありませんでした。それならば自分でやれば良いと考え、無料レンタルサーバー事業を始めました。しかし本格的に商売としてやる気持ちはなく、あくまでも趣味の範囲の副業としてやれば良いとの気軽な考えでした。

3年後の2002年(平成14)に、この事業をフルタイムで行うことに決め、勤務していた会社を辞め、(株)JMFインベストメント&テクノロジー社を設立しました。しかし、当初の年間売上は400万円ほどと少なく、結婚をして子どもが一人いましたので、東京では暮らしていけないことから、物価が安いオーストラリアに本拠地を移しました。当時は社員もいないしサーバーはア

メリカにあったことから、世界のどこにいても仕事は在宅で出来たのです。

オーストラリアに帰国してから、事業も年取も順調に伸びていきました。二人目の子どもが生まれ、趣味ではじめたカーレースもお金がかかり、事業の拡大を模索している頃、会社に「外国にあるサーバーは接続速度が遅い」というユーザーの声が聞こえてきました。背景には日本国内での光回線の普及があり、業界では「速度」が一番の決定的な要因となっていました。この状況からの改善を図るべく、日本へ本拠地を移すことにしました。2004年(平成16)に妻の実家でもある長野市に住まいを移し、義父が経営していた南バイパスにあったコンビニ跡地の場所を借りて事業を開始しました。その後、現在の南県町に本社を構え、2009年(平成21)年に使えるねっと(株)に社名変更をしました。

長野市で事業をしているとよく「どうして東京でなく長野なんですか?」と聞かれますが、自然が好きですし、東京には日帰り出来るので、こんな素晴らしい環境は他にはないと思っています。

もう一つの理由は、高い山で囲まれ、台風や地震などの大きな自然災害が少なく、大切なサーバーがダメージを受けにくいということも魅力です。

●業務の概要をお聞きします…

創業当初からの私のポリシーは「ITのことをよく知らない人でも使えるサービスを低価格で提供する」ということです。

業務は、「レンタルサーバー」と「クラウドサービス」です。レンタルサーバーとは、その名の通り、サーバーを貸し出すサービスです。例えば、ホームページを作ることは個々で出来ますが、運用には“サーバー”が必要になります。サーバーを個々で構築したり運営するには機器も必要で、初期投資が膨大になるうえ電源を24時間、365日落とすわけにはいきません。その管理を引き受けるのが「レンタルサーバー」です。

クラウドサービスは、インターネット経由でハードウェアやソフトウェア、インフラ機能等の提供を行うサービスです。数年前まで業務に必要なソフトウェアは、個々のコンピュータに入れておく必要がありました。データのバックアップも

複数のハードディスクが必要になり、セキュリティーも大変でした。そこで、全ての管理をオンライン上で行うのがクラウドサービスです。個々のコンピュータは作業をするだけです。ソフトやデータが入っていないので、パソコンが壊れてもデータは残りますし、セキュリティーも管理がしやすくなります。

これらのサービスは、大手も含めて様々な企業が参入しています。この中で当社は、サポート体制の充実に特に意を払っています。他社はメールでのサポート中心ですが、当社は電話でのサポートも実施しています。電話だと細かな部分を伝えることができることから、ユーザーにも好評です。サポート体制もしっかりして、サービスも安定して価格も手頃なところが当社の強みだと思っています。

●“コロナ禍”の影響についてお聞きします…

当社は、創業時から「テレワーク」が中心でしたから、コロナ禍によりテレワーク環境への移行が一気に加速したことは、追い風で非常に好都合でした。また、テレワークを利用していただく中で、当社のほかの業務内容も知っていただける機会が増えたことも良かったと思っています。

●今後の夢や方針についてお聞きします…

10年計画でいうとアジアで一番の「クラウドベンダー」になりたいと思っています。クラウドベンダーとは、インターネットを通じて様々なITリソースやサービスの提供をすることです。

現在もインドネシアに会社がありますが、日



データセンター

本を含めてアジア全体に、今までとは違うクラウドサービスを提供していくことが現在の夢です。計画では、エンドユーザーが約3百万人・3万社と見込んでいます。

インドネシアで事業をしているから分かったことですが、現地ではITにかかるコストを極力抑えたい会社は少なくありません。有名ブランドだと高く、逆に格安・無料のサービスだとセキュリティー面やサポート等で不安なところがあるといったところで、弊社では適切な価格設定と安定したサービスを届けることで、誰もが安心して使ってもらえる環境を作りたいと考えています。



展示会の様子

●事業の概要

設立 2007(平成19)年
 資本金 8074万円
 代表者 ジェイソン フリッシュ
 従業員 34名(男22名・女12名)
 業務 レンタルサーバー、クラウドサービス事業
 事業所 長野市大字南長野南県町1082ND 南県町ビル3F
 U R L <https://www.tsukaeru.net/>

●沿革

1999年(平成11)年 個人事業
 2002年(平成14)年 (株)JMFインベストメント & テクノロジー設立
 2007年(平成19)年 (株)JMF設立
 2008年(平成20)年 東京支社開設
 2009年(平成21)年 使えるねっと(株)に社名変更
 2011年(平成23)年 Ozhosting.com PTY LTD出資(オーストラリア)
 2015年(平成27)年 PT Awan Solusi Informatika設立(インドネシア)
 2018年(平成30)年 Rushfiles A/S出資(デンマーク)

北信濃 明治時代の風景

(21)旧長野県庁周辺

長野郷土史研究会会長

小林 一郎



これは明治14年(1881)に出版された「善光寺長野町図」の、現在の信州大学教育学部の東端にあった旧長野県庁周辺の部分です。右上が北です。

長野県庁

明治4年(1871)7月に始まった長野県庁は、当初は西町の西方寺本堂を使用していましたが、明治7年(1874)10月に現在の信州大学教育学部の東端に庁舎を新築して移転しました。この図の中央に「長野県庁」として描かれているのが、その県庁舎です。その位置は、最初に県庁の置かれた西方寺の背後(西側)であることがわかります。その敷地は、長野町字御殿と腰村(西長野)字袖長野にまたがっていました。この新庁舎の落成に合わせて若松町通り(現国道406号)が開かれ、明治12年(1879)には県庁に突き当たる県町通りが開通しま

した。この県庁舎は、明治41年(1908)に焼失するまで使われました。

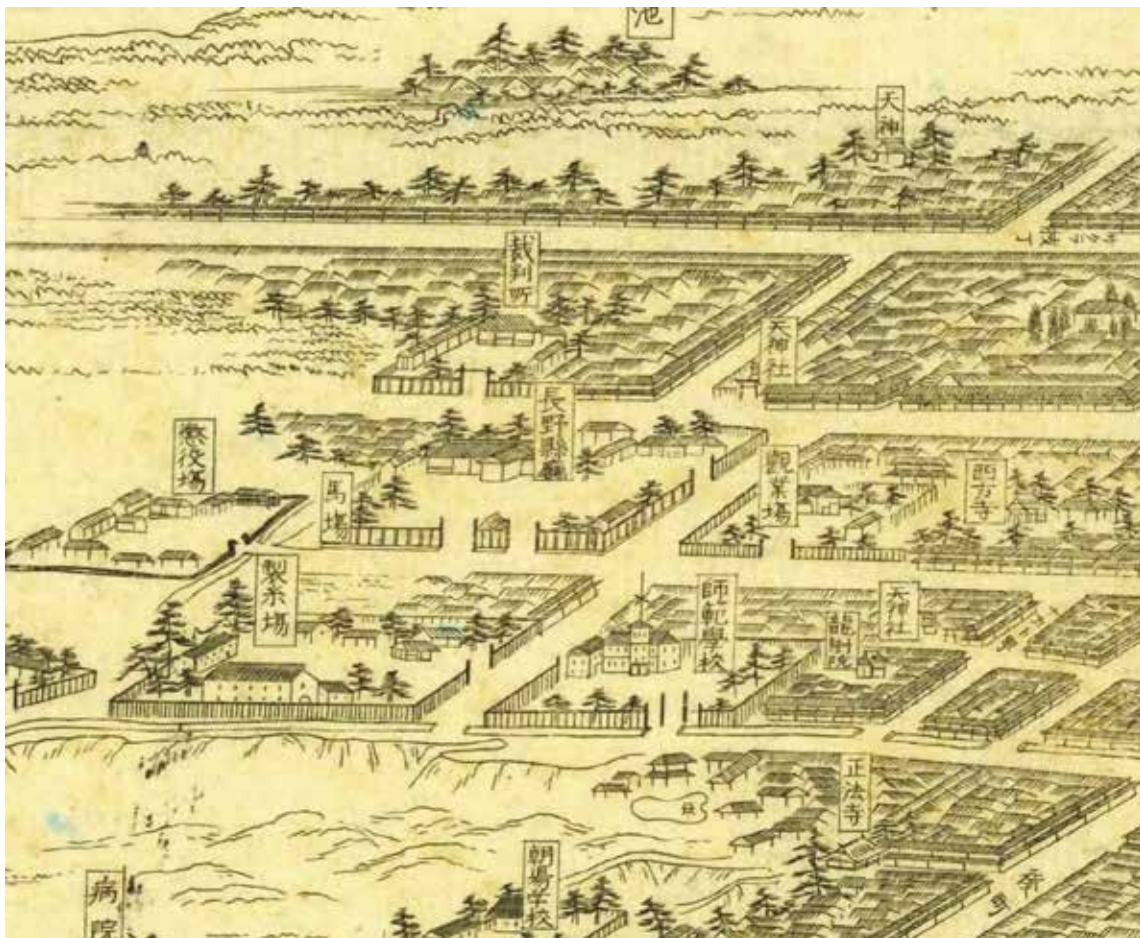
勸業場

「長野県庁」の道を隔てた東隣に「観業場」がありますが、これは正しくは勸業場です。勸業物品陳列場、博物場などとも呼ばれ、長野県の物産ばかりでなく、古書画なども展示されていました。また建物の周囲には、リンゴ、ブドウなどの作物が栽培されていました。

明治31年(1898)には、この跡地に長野市役所が新築されました。

西方寺

西町にある浄土宗の寺院です。善光寺門前では一番の大寺院で、宝永4年(1707)に善光寺が現在の本堂を建立している間、善光寺はこの寺の本堂



「善光寺長野町図」の旧長野県庁周辺

を借用していました。明治4年(1871)7月からは、この寺の本堂が長野県庁舎として使用されました。明治7年(1874)にこの図の県庁が新築されると、西方寺は長野県師範講習所(後の師範学校)として使用されました。明治11年(1878)には長野県病院と医師を養成する医員講習所が、西方寺に開かれています。

懲役場

「長野県庁」の南西に「懲役場」があります。発足した当初の長野県は、未決囚は三輪村に、既決囚は腰村(西長野)に監獄を設けて収容しました。

この「懲役場」は腰村の監獄で、三輪村の監獄を合併して、明治19年(1886)に長野監獄となりました。大正11年(1922)に長野刑務所と改称し、昭和35年(1960)に須坂市に移転しました。

製糸場

「長野県庁」の南側に描かれている「製糸場」は、明治11年(1878)に開場した県営の長野県製糸場です。現在の信濃教育会館(旭町)の位置にありました。松代出身で官営富岡製糸場で学んだ和田英が指導に当たりました。明治14年(1881)からは民間に委託され、明治16(1883)には払い下げられて長野製糸場となりました。

師範学校

「製糸場」の道路を隔てた東側に「師範学校」が描かれています。開智学校(松本市)や中込学校(佐久市)と同様に、中央に望楼がある擬洋風の学校建築であったことがわかります。これは現在の長野市立図書館(長門町)の場所で、明治8年に新築されました。師範学校の本館は現在は残っていませんが、教師館(管理棟)だけが県宝に指定されて飯綱高原に移設されています。

師範学校は明治20年(1887)に県庁の西側(現在の信州大学教育学部の位置)に移転し、跡地は付属小学校となりました。

龍樹院

「師範学校」の東にある「龍樹院」は、長門町にあ



馬小路から見た長門町の天神社

る天台寺門宗の寺院です。本尊は不動明王で、善光寺の門前町では珍しい修験の寺です。

長門町は「ナカト早」と書かれています。天神社があることから「天神宮町」と呼ばれていましたが、明治7年(1874)に長門町と改称しました。

天神社

「龍樹院」の北に、菅原道真を祭神とする「天神社」があります。天神宮町の通称を長野町といったので、長野天神と呼ばれてきました。長門町と西町の人々によって祭られています。大門町からこの天神社に突き当たる小路が花屋小路と馬小路で、それぞれ善光寺七小路に数えられています。

「長野県庁」の北東にも「天神社」が描かれています。これは立町の産土神です。立町は善光寺大本願に直属する町でした。この「天神社」の西側の小路は、「うちわ屋小路」と呼ばれています。

裁判所

「長野県庁」の北に「裁判所」があります。これは明治11年(1878)に立町に置かれた松本裁判所長野支庁です。明治15年(1882)に長野始審裁判所となり、明治19年(1886)に花咲町に移転しました。

1月号は「善光寺の西方」の予定です。

◆「若者が生き生きと活動できる環境を作る」ために、どのようなことに取り組むべきか

「若者や女性への就労支援」44% 「Iターン・Jターン・Uターンの拡充」40%
 「若い人が交流する場の提供」28% 「学卒の地元就職支援」26%

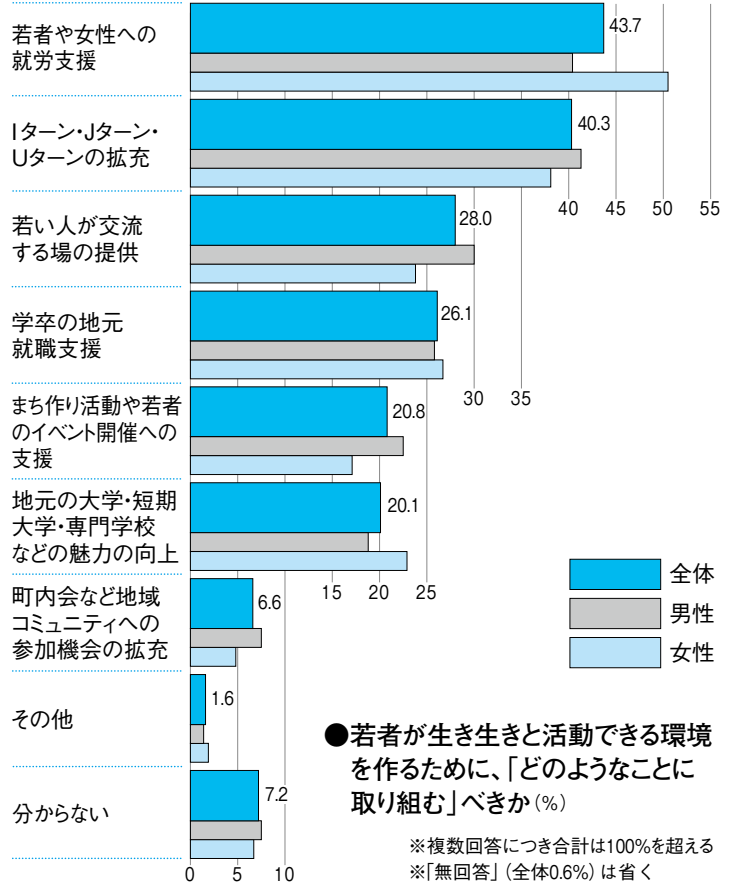
「若者が生き生きと活動できる環境を作るために、どのようなことに取り組むべきか」を聞きました。

全体の1位から4位までの順位を見ると、1位が「若者や女性への就労支援」、2位が「Iターン・Jターン・Uターンの拡充」、3位が「若い人が交流する場の提供」、4位が「学卒の地元就職支援」となりました。

男女別で順位を見ると、全体の順位と比べて、男性は1位と2位が入れ替わり、女性は3位と4位が入れ替わっています。

世代別で順位を見ると、全体の順位と比べて、10～20代は3位と4位が入れ替わり、30～40代は4位のみが異なり、50代以上は3位と4位が入れ替わる結果となりました。

〈当金庫・2023年9月調査〉



●みなさまの税務相談のご案内 [1月]

(注)上の店名は開催場所、下の()内店名はその相談日に含まれる対象店です。

開催日	午前	午後	開催日	午前	午後
1月 9日 火	城北支店 (若槻支店)	柳原支店 (東長野支店)	1月 23日 火	屋代支店 (稲荷山支店)	戸倉支店 (上山田支店・坂城支店)
11日 木	南支店 (七瀬支店)	吉田支店 (古里支店)	24日 水	若穂支店	小布施支店 (中野支店)
12日 金	墨坂支店 (須坂支店・太子町支店)	飯山支店 (山ノ内支店)	25日 木	大門町支店 (桜枝町支店)	善光寺下支店 (権堂支店)
16日 火	更北支店 (松代支店)	伊勢宮支店 (石堂支店)	26日 金	本店営業部	
17日 水	篠ノ井支店 (川柳支店)	川中島駅前支店 (川中島支店)	29日 月	本 部	
18日 木	大豆島支店 (長池支店)		30日 火	本 部	

